

色濃く朝から蟬の音が暑気をかきたてるような気がする。

秋の訪れは金木犀の香りと共にはじまる。かって玄関前の金木犀は東洋一といわれ、おびただし
いオレンジ色の花房は、少し大きさに云えばキャンパス中にその馥郁たる香りをただよわせた。こ
の木も颱風で一度根こそぎ倒れてから次第に弱り、大槻先生に伺うと老化現象で幹の中に空洞が出
来、バクテリアが巣くっているので、手のほどこし様がないとのことであった。最近この大木の横
に若木が植えられたのは大槻先生の御寄贈によるものであるそう。とくに公害に弱いといわれ、
この近年あまり沢山咲かなくなっていたが、去年は意外にも玄関前の木にも、とくに高校の前の木
にはびっしりと花をつけた。10月1日夕方下校の際かすかな香りにさそわれて近よってみると、
枝ごとと蕾がふくらんでいて胸のときめくような思いがしたものであったが、私の住む浦和では、
1日おくれて10月2日の夕方にはじめて匂った。花の期間は約1週間で、終りころは冷たい霖雨
にうたれて、香りがパタリと遠のいてしまう。“キンモクセイ咲いて議論百出。”と10月15日の日
経の夕刊に出ていたところを見ると、去年は都内各所で沢山咲いたらしい。

10月半ば、葉はまだ青々としているのに、梧桐の実も早くも色つき乾燥して、舞い落ちる体勢
をととのえる。そのころ会計課の窓下のすずかけの実も茶色になる。プラタナスの日本語訳がすず
かけなのか、古来すずかけと云いならわして来たのかさだかでないが、まことに云い得て妙な名を
つけたものだと感心させられる。山茶花がボツボツ花をつけはじめのも10月半ばである。風に
吹かれた紙屑がひっかかっているのかと思ってよくみると半ば開きかけた花であつたりする。私が
山茶花を好まないのは何となくピラピラした感じである上に、冬の訪れを思わせて気ぜわしさをか
きたてられるからかもしれない。

こ と ば と 文 字

福 井 英 一 郎

日常生活に使われることばや文字はお互の意志を伝達したり、記録として将来に残す重要な手段
で、恐らく人間以外の動物にはみられないもので文化を構成する大きな要素と言ってもよいであろ
う。それなのに今の日本ほどことばの乱れている時代も少ないであろう。

西洋文明が堰を切って奔流のように押寄せてきた明治初期のいわゆる文明開化の時期においてさ
えも当時の新聞や出版物でみるかぎりでは今日ほど無秩序・無批判なことばの乱用は行われなかつ

たようである。もちろんことばは一時の流行で短い寿命で消失するものも多く、時代によっての変遷も大きいのでそれほど気にする必要もないと言えようが、欠点と同時に多くのすぐれた長所と歴史をもっている日本語に対してフランス人などのようにもう少し国民としての誇りと愛情があってもよいのではないかと考えられ、またそれが教養の一部であろうとも思うが、こゝではその中の一つだけを拾ってみよう。

最近とくに目立つのは会話や文章にどう考えても必要とは思われないような外来語を片かなにしたものや珍妙な略語がほとんど無意識に使われていることである。レジャー、マスコミ、コマーシャル、ミュージカルなど既に英語ではないし、日本語としても決して好ましいことばとは思えない。さらに学術書や論文などでも日本語で十分表現できてその方がわかりやすいと思うのにわざわざ片かなの外国語が使われているのは不可解至極である。たとえばある日本史の専門書にはデイスホテイズムということばがさかんに出てくるが、これを独裁政治や専制政府と書いてどうしていけないのだろうか。ヘゲモニー、マナリズムなどについても同じである。イデオロギー、クーデタ、イニシアティブなどはある程度やむを得ないとしてもグループやディテールなどは日本語でも十分に合いそうである。

私は元来日本語の中にやたらに外国語を入れるのは好まない方で日常の談話以外に学校での講義や文章の中でも日本語ではどうしても表現が困難だったり、不正確になる場合の他は極力意識的に術語以外の外国語は避けるようにしている。しかしこれはあくまで個人の趣味の問題で、表現の自由を与えられていることであるから一概にどうということとは言えないが、ただ他の人が使っているからということだけでは知識人としてあまり自主性がなさすぎるように思われる。

学術書や学術論文、とくに自然科学では専門の術語や内容の理解は別として、文章それ自体は誰にでもわかりやすいように書くのが原則とされていて現実にも大部分の人によって実行されているし、特殊の場合以外に日本語がそれほど表現力の乏しい国語とも思えないので無用の混乱はつとめて避けた方がよいのではないかと考える。

ことばについてはまだこの他に前に触れた略語の乱用や変な流行語の氾濫などに対して一方平易な文章や漢字、世界語などについての意見も少々胸の中には貯えてあるが、いずれ他の機会にゆずることにした。